



アフガン攻撃の4ヶ月でわかったことその2

- 1, アメリカは国連を無視して軍事力の行使を行った
- 2, オサマ・ビンラディンと一握りのアルカイダを捕らえるために
4, 000人近い民間人を殺し、数十万人を飢餓に曝した
- 3, 協力しない国や勢力に対する攻撃拡大も計画している（以上前号の見出し）

4, アルカイダはアラブの国の何処にでもいる

イスラム原理主義集団アルカイダは、パキスタン、イラン、イラク、エジプト、サウジなどアラブ・イスラムのどの国にもいます。ドイツにもアメリカにも住んでいることは9月10日の事件の後明らかになりました。彼らがアメリカのやり方に憤りを強めていることは確かだが、アメリカにとってテロリストを一網打尽に捕らえることは出来ない以上、彼らを追いつめることよりも、彼らの反米感情を和らげる政策に転換することが最良の解決策でしょう。

5, 最新兵器の実験場になっている

アメリカ軍が今度のアフガン戦争で使った新兵器が3つあります。

クラスター爆弾・・・湾岸戦争、ユーゴスラビア空爆でも使われた。

対人地雷、対戦車地雷などの子爆弾が親爆弾に内包されていて広範囲に拡散して人を殺傷したり地中に埋められる。

バンカーバスター爆弾・・・地中の防空壕などを破壊するのが目的で、小型戦術核に匹敵する破壊力を持つ。地下30メートルまで破壊。6メートルのコンクリート壁を貫通する。

燃料気化爆弾・・・飛散した燃料が一瞬にして燃え上がることから、広範囲に酸素が欠乏して窒息死する

テロ集団を相手の捕捉作戦にこのような非人道的な兵器を使用し、罪もない民間人が多数死傷していることは犯罪行為といえます。現地に行って来た作家の辺見庸氏は「これは戦争ではない。一方的襲撃だ」（朝日新聞寄稿）と書いています。この破壊のあとに憎しみ以外の何が残るのでしょうか。

6, 戦争のやり方が大きく変わった

湾岸戦争と比べると、この戦争でアメリカ軍の犠牲が非常に少ない点で戦争のやり方が革命的に変化したといえます。米軍の特殊部隊の装備はレーザー双眼鏡と小型パソコン、暗視装置。パソコンが人工衛星を経由して爆撃機に攻撃目標を指示すると、誘導爆弾による正確な攻撃が行われる。地上戦で犠牲を出さないとタリバーンを崩壊させてしまったわけです。米軍相手にまともには戦える国はもうない状況の中で、アメリカが世界中に介入の手を広げようとしています。アメリカが強くなればなるほど民族的反米感情は強まっていきます。

7, アフガンを模範的平和国家として復興させよう

アフガンを模範的な平和国家に再建したいものです。日本はアメリカの覇権主義に追従するよりも、平和主義に徹して難民救済と復興に協力することこそが世界の平和に貢献できる道です。外務省のNGOはずしはとんでもない非常識です。井上 仁志 記